
キミの名をよぶ

新井ハニー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キミの名をよぶ

【Zコード】

N51170

【作者名】

新井ハニー

【あらすじ】

実の兄貴の不倫現場って見たことある?

「ここにいる意味

私は、橋本優愛^{ゆづあ} 38才

現在のところ専業主婦。

結婚して10年になるのですが、子どもには恵まれず、銀行に勤める夫、涼^{りょう}一と二人で神奈川県内で生活をしています。

結婚して何年かは、なかなか子どもに恵まれない私たちに、親戚やら外野やらが何かと言つてきた事もしばしば…でも、それも5年もたつと自然と?その事については禁句になつたらしく、今では誰も何も言わなくなつていた。

実際のところ私たち二人が

”自然に任せよう”という考えだったので、特に病院に行つて検査を受けたりする訳でもなく、気がつけば10年経つていた。

夫婦仲は…至つて普通…でもないか…?

どちらかといえば、お互^{たが}いの存在自体が空氣化してしまつていて、
とりあえず”夫婦”という括りの同居人…といったところでしょう?

夫、涼一は私よりも7つ年上で現在45才。
会社でのポジションは、支店長というやちかいな肩書きを背負つていて…

度々、頭が痛くなったり、胃が痛くなったり、寝不足だったり…
急な呼び出しで休日出勤なんかはショッちゅうで…「そうだ！！確
か今日だつたよなー？」

本日も土曜日だというのに呼び出され身支度中の夫がネクタイをし
めながら私に聞いてきた。

私はカレンダーを確認して涼一に言った。

「そうね。14:00着予定と書いてあるわ。」

そう聞いたにもかかわらず涼一は自分の目で確かめる為にカレンダ
ーの前へ…

しばらくカレンダーと自分の時計を交互に見比べ「すまない優愛…
慶の迎え頼んでもいいか?」とたずねてきた。

私は

「構わないけど、私 慶くんの顔全然覚えていないわ…会つのも1
0年振りだし。」と答えた。

夫が私に迎えを頼んでいる”慶”とは、夫の弟で橋本慶次郎、年齢
は28才。涼一とかなり年が離れているのは、涼一の父親と慶次郎
の母親が再婚してできた子どもが慶次郎なわけで…年の差17才。
私が初めて慶次郎に会った時、彼はまだ中学生だったような気がす
る。

その次に会つたのは私達の結婚式の時だから、確か18才くら
いだったのかなあ…。

大学を卒業して実家のある埼玉で仕事に就いたと聞いていたのだが
…2ヶ月ほど前、夫がこんな相談をしてきた。

- 2ヶ月前 -

「慶が、じつで仕事を始めるらしい…。」

何が氣に入らないのか憮然とした口調で夫は続けた。

「まったく、大学まででておいて就いた仕事はあんなで…」
ブツブツ言い続ける夫に私が

「それでも、仕事は仕事よ?」と言つと

「ラブホテルだぞ!?」と夫の口調が少し荒くなつた。

私は少し呆れたように夫を見つめ

「ラブホテルの何がいけないのかしら?私たちだって知り合つた頃は度々お世話になつたわよ?」と言つた。

涼一は少しバツが悪そうにグラスの中のビールを一気に飲み干した。

私は続けた

「それにラブホテルといつても慶くんの場合は内装やインテリアのデザインが中心でしょ?氣にする方がどうかしてるわ。」

新しく開けたビールを涼一のグラスに注ぎながら私は少し意地悪く「ねえ…じゃあ慶くんがデザインしたホテルが完成したら一度行ってみよつか?」と囁いた。

涼一は危うく口に含んだビールを吹き出しそうになつた。

「うふふ…冗談よ。それで??慶くんは何て言つてゐの?」

「え??ああ、仕事の期間がどのくらいになるかまだ未定で、部屋を借りるにしても色々面倒だから、兄貴の所にしばらく居候させてくれないか?…

だそうだ。俺の一存では決められないからな、返事はまだしていな

いが。
」

何やかんや、ぶちぶち文句を言つても、やはり年の離れた弟の事は気がかりで、そして可愛いのでしょうか。本当はすぐにでもOKの返事をしてあげたかったのだと思います。でも、そこは私の事も少しは気遣つてくれたようで。

「どうだらう優愛。あいつも、いい大人だし身の回りの事は自分でするように言つておく。
慶が言つたことの”しばらぐ”の間にここで一緒に生活をせても構わないだらうか？」

思えばこんなふうに夫から頼まれ」とをされたのは初めてかもしれない…。
私は、夫のその問いかにすぐに答えた…

「もちろん構わないわ」と

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5117o/>

キミの名をよぶ

2010年10月25日21時31分発行